

# 平成31年 年頭のご挨拶



森田 弘昭

一般社団法人  
日本非開削技術協会会長

新年明けましておめでとうございます。

新しい年である2019年が始まりました。会員の皆様におかれてはそれぞれにあらたな抱負と目標をもって新年を迎えられたことと思います。まずは会員の皆様と日本非開削技術協会が共に穏やかな新年を迎えることができたことに感謝したいと思います。

年頭にあたり昨年の当協会の活動を振り返ってみたいと思います。

まず国内の活動から見てみますと、昨年2月に、広島市と福岡市で非開削技術講習会を開催しました。当協会が発行した「非開削地下探査技術適用の手引き（案）」及び「地下管渠工事の社会的費用—算定の手引き—（案）」の普及と今後飛躍的な工事の増加が予想される「管路更生工法の概要」の三つのテーマにHDD工法を加え講習時間を一日に拡大して実施しております。なお、「非開削地下探査技術適用の手引き（案）」の一部が国土交通省とベトナム建設省が共同で策定している「ベトナム版推進工法基準（第5版）」に引用されました。これは外部団体との連携による新しい取り組みです。

6月の総会・懇親会では例年以上の来賓と会員の方々にお集まり頂き盛会となりました。

7月には第25回非開削技術講演会を政策研究大学院大学の想海楼ホールで開催しました。

8月に北海道大学で開催された土木学会全国大会において本協会の地下探査委員会が「非開削地下探査技術適用の手引き（案）」を発表しました。

9月には静岡県建設技術協会から研修の講師派遣を要請され講師を派遣しました。

11月には第29回非開削技術研究発表会を開催しました。東京電力関係企業から多数の発表がありました。

昨年は、協会の体制にも新しい動きがありました。機関誌No-Dig Todayの企画立案と方針決定のあいだの迅速性・効率性を確保するために本委員会と小委員会の2階建て構成を1本化し新編集委員会を立ち上げました。本誌の前号105号より新編集委員会のもとで発行しています。また事務局長の交代があり事務局の平均年齢が大幅に低下しています。

国際活動においても下水道グローバルセンター（GCUS）と連携した取り組みを始めるなど新しい動きが出てきています。

3月にはドイツのDr.ロバート・スタイン氏（Steins & Partners社）によるドイツの非開削技術のセミナーを実施致しました。

4月に中国河南省で開催された第22回中国国際非開削技術研究討論会・展示会に参加し日本の非開削技術について基調講演を行いました。

更に同月、ポーランドで開催されたTrenchless Technologies NO-DIG POLANDに参加し日本の非開削技術について基調講演を行いました。

GCUSからの要請で7月に開催されたシンガポール国際水週間（SIWW）に参加し展示会の通訳を行っています。

10月にはこれもGCUSから要請で受けてニューオーリンズで開催されたWEFTECでの日本人発表の支援を行っています。

更に同月、南アフリカ共和国で開催されたNo-Dig（非開削技術）国際会議及び展示会に参加しNO-DIG JAPAN開催の要請に対して検討することを表明してきました。日本での国際会議の開催には多くの課題がありますが会員の皆様と丁寧な議論を通じて可能性を探っていきたく考えていますのでご協力のほどよろしく願いいたします。

11月には中国の水業大講堂会議から日本の更生工法に関する講演講師の派遣を要請され講師を派遣いたしました。

12月には台湾で開催された次世代浸水対策と下水道に関する国際会議に参加する下水道協会の通訳を行いました。

昨年は、国土交通省が実施している下水道技術海外実証事業（WOW TO JAPANプロジェクト）に会員企業と一緒に応募しました。採択には至りませんでした。当協会の国際ネットワークがより強化されました。

昨年の活動を振り返りますと徐々に新しい風が吹いてきているのではないかと感じます。当協会は、この新しい風を大切にして会員の皆様のお役に立つ活動を進めていくことを心に念じ取り組んでいく所存です。

新しい年が会員の皆様にとって実りある年となりますように祈念して年頭のご挨拶といたします。